

オワリの大きな“からっぽ”・一宮

(断章“ノコギリヤネのある風景”その5)



▲ 名取春仙「一宮名勝図絵(工場繁栄)」(1933/昭和8年)

コロナ禍が、一旦、収まりかけたと思われた7月のある日、久しぶりに故郷の一宮を訪れた。

ある思いとともに真清田神社に詣でた。前回、「起・機業コミュニティ」の寓話で触れた“一宮カラスと起トンビ”。その“一宮カラス”の住处である真清田さんで何か見えて来ることがないだろうか。

挿絵画家として名を馳せた名取春仙の描く「一宮名勝図絵」(昭和8年発行)。その一枚に「工場繁栄」と題する木版画がある。“ノコギリヤネのある風景”ならぬ“煙突のある風景”である。小学校の校歌の一節を思い出す。青田の空に煙舞い、並ぶ煙突賑やかに…。工場の煙突が、近代化の象徴であった。絵は、日本紡績一宮工場(昭和16年12月に閉鎖)一帯を描いている。現在の競輪場跡地、市営球場あたりである。

真清田神社の楼門を潜り、拝殿を正面に見据えた時、背後に視線を感じた。気のせいだろうか。振り向くと、楼門の上から、一羽のカラスがこちらをじっと見ている。マスミダカラス？

「お前が、案内してくれるというのか？ マスミダカラスよ」

ノコギリアン(神奈川県藤沢市在住/一宮市今伊勢町出身/のこぎりニに出没)

1. “からっぽ”になった一宮

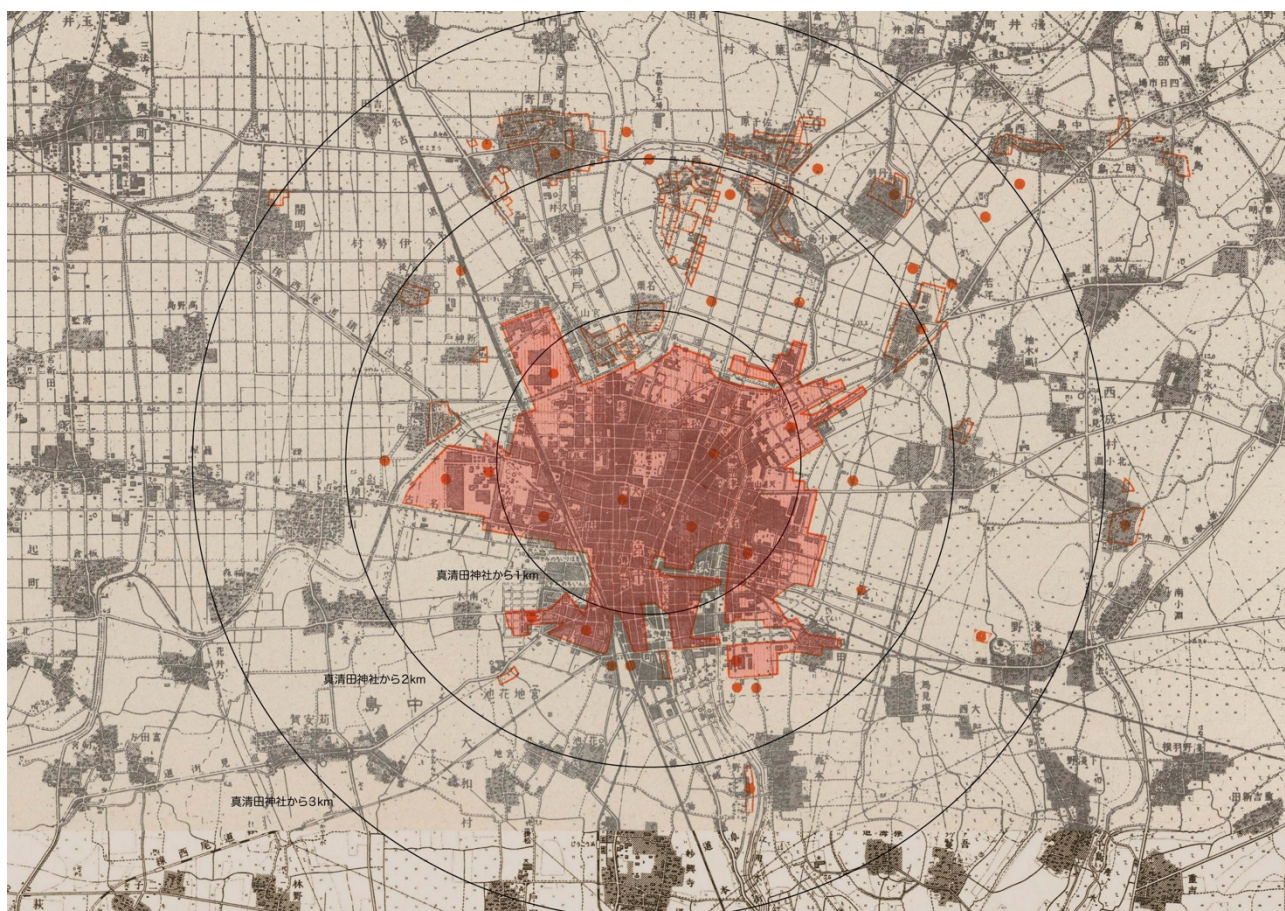
拝殿の前に立ち、その奥に視線を定めると、突然、周りが闇に包まれた。そして、突如、拝殿奥の扉が裂け、真っ赤な炎が噴き出してきた。その勢いに、思わず後退る。同時に、頭の中に声が響いた。

これは、真清田神社が燃えているところだ。アメリカ軍による空襲だよ。いやはや、情け容赦ないな。カミサマまで焼いちまう。しかし、身震いするほど神々しいだろ？

これは、あのカラスの仕業なのか。75年前の7月28日の夜、一宮の市街地はB29による攻撃を受けた。この夜半の空襲で、真清田神社はじめ、警察署、尾張一宮駅、中学校、工場等を含む市街地一帯が消失した（戦災概況図）。焼け落ちる社殿、カミサマの消失。そして、夜が明け、鳥居だけが焼け残り佇んでいる。廃墟を前に言葉を失う。その後、半月ほどで終戦を迎える。そして、大きな混乱が始まった。

いまお前が見ているのは、上空から見た焼けた一宮の市街地だ。

どうだ、まちが“からっぽ”になるっていうのは凄いだろ。いま、商店街が空洞化したなんて言っているけれど、本当の“からっぽ”っていうのは、そんなもんじゃねえ。全て無くなっちゃうんだよ。これまで積み上げてきたものも、これから生きていくすべさえな。



▲ 空襲で戦災した一宮中心地（「戦災概況図」を一部加工。赤色が1945年7月28日の戦災エリア）

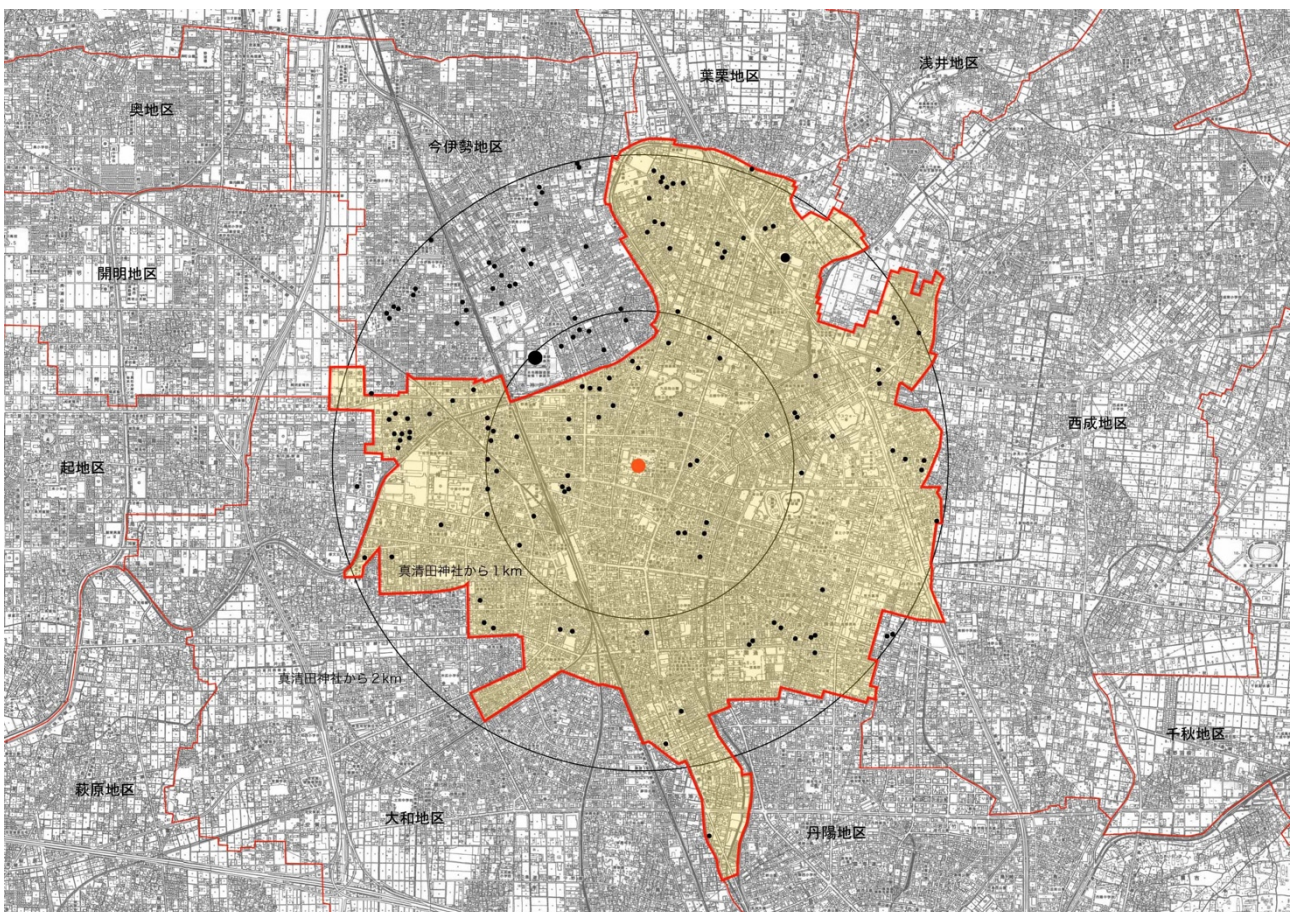
2. “からっぽ”から生まれた「ガチャ万」

一時は、“からっぽ”になった一宮の中心が、上から見る限り、今じゃこんな立派になったじゃねーか？
まあ、空き地は増えてきたけどな。でも、もともとが詰め込み過ぎなんだよ。できれば、オレたちの寝ぐらの森をもっと広くして欲しいもんだな。

終戦から間もなく三八市が開かれ、ヤミ市として活況を呈した。駅前商店街ができ、織物問屋が集積し、かつての賑わいを取り戻していく。くだんの真清田神社は昭和32年に再建されている。その前年には七夕祭りが始まった。昭和40年には人口が20万人を超え、名古屋市に次ぐ県下第二の人口規模となった。その後、繊維産業の勢いは落ちるが、尾張は今も世界の三大毛織生産地と言われる。その背景には、「起・機業コミュニティ」のように、時間をかけて育まれてきた勤勉性、創意工夫、技術力などがあったはずだ。しかし、それが「ガチャ万」という暫時の喧騒に未だに呪縛され、地域自らが誇りを失っているように見える。戦災で神様が消失してしまったことが、この自虐的とも思える精神性に関係しているのだろうか。

カミサマだって？ そんなものは元々いないんだよ。神社なんて、“からっぽ”の器さ。何もないところに、人々の思いが籠り、それが大きな力を溜め込む。呼び込んだんだよ、作り上げたんだよ、戦後の苦しい生活の中から、一宮の人たちの心がな。その結果がガチャ万なのさ。

“からっぽ”は使い方次第だ。そこから生まれる力は大きい。それを見せてやるよ。



▲ 旧市域＋真清田神社2 km 圏内に残るノコギリヤネ（合計 143：旧市内東側 74、同西側 31、その他 38）

3.からっぽ”、ウツホ、ゼロ・・・それは始まりのチカラ

拝殿の扉が開き、その奥に円形の“からっぽ”がこちらを窺っている。そして、そこから、螺旋状に次から次へとこちらに向かって送り出されてくるものがある。それは、真清田神社の門前、多くの人たちで賑わう様々な風景であった。さながら、時間と空間を超越して織り成される万華鏡である。享保時代に始まった三八市、戦後のヤミ市、初詣、桃花祭、七夕祭り・・・

いま見ているのは、真清田のからっぽから生まれたものだ。からっぽ、ウツホ、ゼロ・・・みんな同じだ。それは、何もないのではなく、何ものにもなる始まりのカタチだ。だから、モノ、人が集まる。一宮とは、“市の宮”だな。だけど、“市＝イチ”は、始まりに過ぎない。大事なのはその後だ。イチからマチをどうつくるか。勢いだけじゃダメだ。やがて失速し、元に還るだけだ。ガチャ万がそうだった。戦争特需（朝鮮戦争）という偶然に始まり、経済成長の波に乗ることができた。しかし、その先に何が描かれた？ 後世に誇れるまち、地域を残せたのか。

現代の三八市かもしれない「杜の宮市」。ここから、一宮が、次代に誇れるまちになる何かが生まれることを期待しているのだが。一年に一度、各地から多くの“来たり人”が集まる。彼らは、現代の“まれびと”かもしれない。閉塞した地域に新たな風を吹き込んでくれるかもしれない。

そうか・・・。お前に見せたいものがある。



▲ からっぽ・ウツホ・ゼロの万華鏡

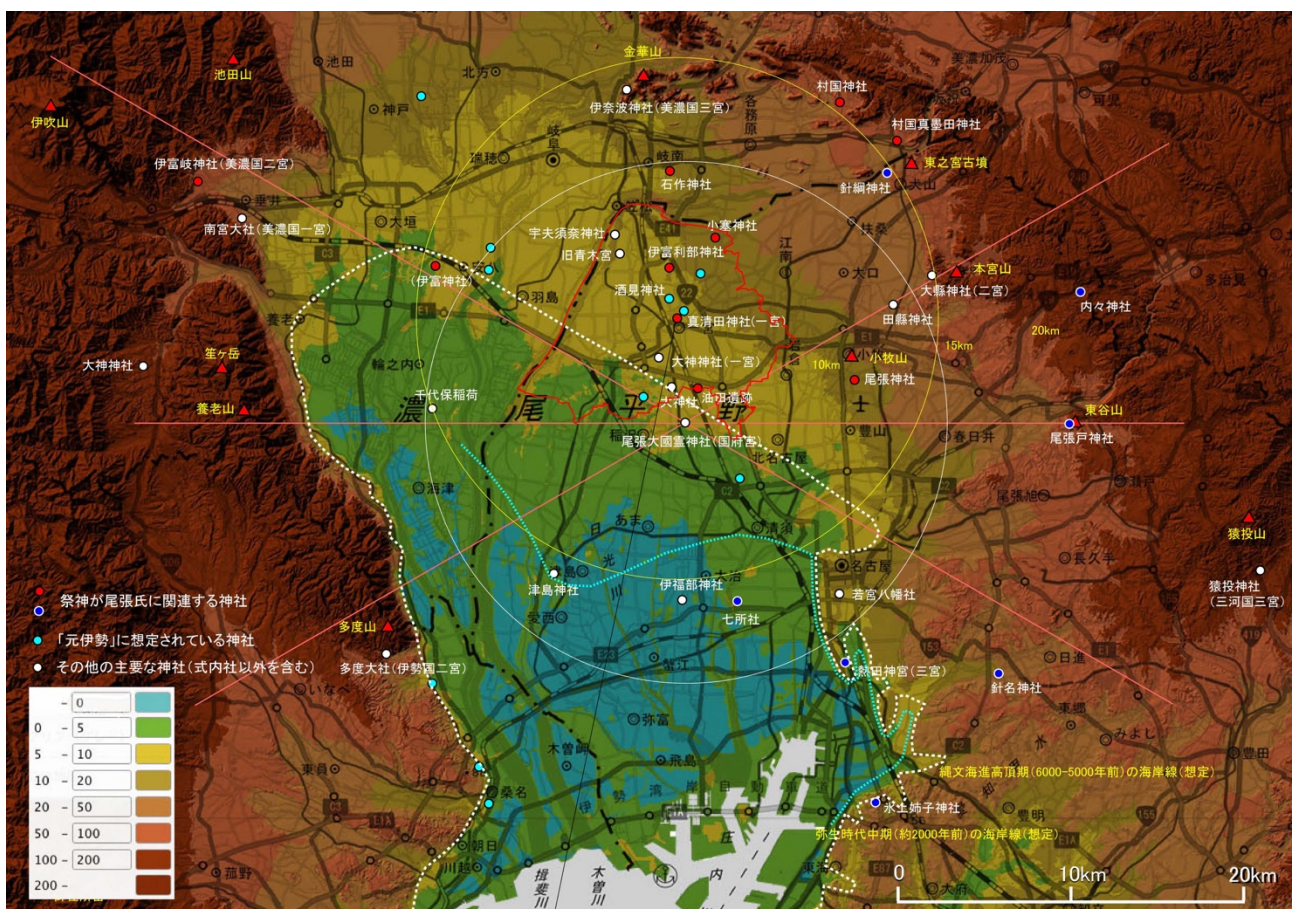
4. 「一宮という虚構」あるいは「オワリのからっぽ物語」

その言葉とともに、カラスのスコープは上空へと勢いよく昇り始めた。マスミダカラス、どこまで昇るつもりだ。眼下には、濃尾平野が広がっている。いや、これは・・・、時間も遡っている。古代の木曽川乱流、縄文時代の海進・・・。これは、“神の眼”か。

尾張の大地は、太古の時代から、美濃を含めた広がりの中でつくられてきた。縄文人やその先住民は東部の丘陵地に住み着き、尾張を支配した尾張氏は、熱田の台地に拠点を構えた。なぜ、木曽川の乱流する無防備な平坦地に尾張の“一宮”があると思う？ 教えてやろうか。それは、虚構だよ。オワリ開闢の壮大なフィクション。ヤマト国と同じく、尾張の国は尾張氏はじめ多くの部族・氏族の連合体だ。それをまとめるために、美濃を含めた広大な大地の真ん中に強大な“からっぽ”を据えたのさ。

真清田神社の創建は、神武三三年三月三日。この“からっぽ”が、“オワリの始まり”となる。

大地の真ん中に作られた“からっぽ”。真清田神社の祭神は、明治に尾張氏の祖神といわれる天火明命に定まるまで、大己貴命、国常立尊、天照大神、月読命、さらには大龍神と多彩だ。何者でもあり、何者でもない。しかも、尾張氏と真清田神社の関わりを記すものはないという。それに、尾張の総社の国府宮、牛頭天王信仰の総本社の津島神社の存在も気がかりだ。一宮の未来を考えるには、オワリの始まりまで視野に入れろということか。わかったよ。この先、空間、時間の尺度を広げて、小さな“からっぽ”でもあるノコギリヤネを見ていこうと思う。



▲ オワリの大地と神々の連合 (未完)

○エピローグ

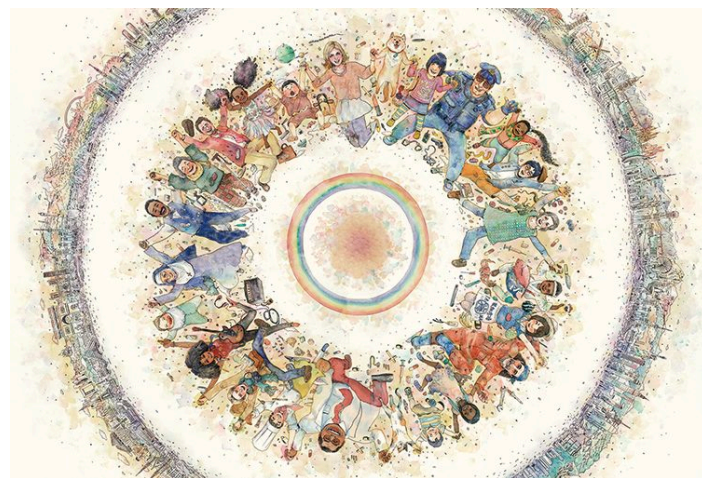
75年前、終戦間際の空襲で廃墟と化し、“からっぽ”となった一宮の中心地。7月の中旬、真清田神社を訪れ、この着想を得てから二ヶ月近く経ってしまった。猛暑を挟み、おぼろげに見えてきた筋道は、この“大きなからっぽ”がガチャ万を生む契機となり、そのガチャ万に呪縛された象徴であるノコギリヤネは無数の“小さなからっぽ”として、この地域を変えていくかもしれないという期待であるが、この先、どういう展開になるのか、いささか不安である。

『古事記』には、神武東征の道案内をしたとされる八咫鳥（やたがらす）が登場する。マスマダカラスにも三本の足があったかもしれない。『日本書紀』では、金色のトビ（金鷄/きんし）が日本建国を導いている。カラスとトンビにまつわる寓話の興味は尽きない。尾張の地で、古代から現代にわたり繰り返されてきた「マスマダカラスとキノガワトンビの攻防物語」も面白そうだ。しかし、まずは「ノコギリヤネのある風景」だ。次回から、今伊勢、奥町を手始めに、一宮市とその隣接地域を見て行こうと思う。

“大きなからっぽ”のオワリ物語を予感させるアート作品がある。一宮出身のアートユニット「カテイトエ」（梅津諭・和枝）による「EN」であり、国際的コンクールで高い評価を得ている。多様な民族、人種の人たちが輪となり踊り、それを街並みが丸く取り囲んでいる。ENとは、円であり、縁であるという。みんなが手をつなぎ、陽気に踊る活気にあふれる社会。これを未来像と考えるならば、過去の繰り返しである。この絵の持つ危うさかもしれない。そうではなく、これは一宮とその周辺を含むオワリという地域の“未来の始まり”を描いたものだと考えたい。オワリの始まりである。まずは手を取り合い、協力することだ。この地を訪れる“来たりと”とともに。そこから、それぞれが、まちを描いていけばいい。

親しみと敬意を込めて、この作品を“オワリドーナツ”と呼びたいと思う。

2020.9.22



▲ 「EN」(2018、カテイトエ)